

「あぶないからダキ!!」
だれからもそう止められず、夏休みの間、ず
っと魚とりで熱中できたヒロキとユウマ。ほ
くは読みながらうらやましくして仕方がなかっ
た。ぼくの友達にはゲームや習い事で忙しい
からだ。ぼくと二人には共通点がある。魚を
つかまえてワクワクするところ。つ、た魚の
名前が知りたくて事典で調べたり、飼って観
察したりするところ。気持ちが分かるからに
んまりしなから読み終えた。

ぼくの家は住宅街と自然の両方があつてこ
の訪の環境とそれほど変わりがない。近くの
二級の川は、海へつながっている。一歩家を
はなれると道路をはさんで、田園が広がって
いる。水田のあきにある用水路は、ぼくの大
切な遊び場だ。台風がくると用水路の魚が心
配で外ばかり気になる。リビングから用水路
がよく見え、青もよくとどくので、中学年か
らは思うぞんぶん遊ばせてもらえるようにな
った。春夏は、水が増えて魚かとならないけれ

ど、秋冬は水がへって魚がたくさんとれる。この用水路で三十センチくらいのドジョウもつかまえた。一メートルくらいのコイも見たんだけど、お母さんには信じてもらえなかつた。この本をいっしょに読んで「そうか、本当だ、たんだね」とやうとぼくの言っていたことき信じてくれたみたいだ。ぼくの一夏の楽しみは、毎年仲良しの親友との郡上のキツスキヤソアだ。川に飛び込んだりもぐって魚を観察したりして魚とも友達にな、た気分だ。空気がきれいで朝はすすしくて、キヤウリヤトマトの、丸かじりがとてもおいしい。お母さんの育てたトマトもおいしいけど、正直だんせんおいしい。きれいな水と空気の方だと思おう。ここは自然と人が仲良くしているみたいだ。

また、東京に住んでいるいとこと年に一回、岐阜の山すそに住むおばあちゃんちで遊ぶ。いとこの詩では、学校の校庭にも自然はあって、校庭のすみを歩き回って刀又サリをつか

まえたゞ、えさになるアリをさがしたりして
いるらしい。ある時、岐阜でカナヘビをさが
まえた時は「絶滅きぐ種のカナヘビだ」と喜
んで新幹線に乗りこんだ。東京に帰って家を
11ヶ月も直してたという。又、鳩はどうしてもえ
さが見つからず、ネットで購入している弱
を百匹買ったのだが、百匹も買っている弱
肉強食で共食いが始まるんだと話してくれた。
そういう話がおもしろかった。そういうえばほ
くのえさ用のメダカもけこう手がかかる。

用水路なら勝手に入るのに。自然のつなが
りのエネルギーはすごいんだなあ。

どこに住んでいても誰でもみんな自然が好
きなんだと思う。ぼくたちはいつも自然に楽
しませもらっている。自然からたくさんのも
のをもらっている。だからぼくたちが自然を
大切にすることこそが恩返しだと思う。そし
て、ぼくは親になったらヒロキのお父さんみ
たいに自然の楽しさを子供に伝えていきたい
と思っっている。